

呼吸器内科のご紹介

当院は胸部悪性腫瘍の診療における北海道の拠点施設です。胸部悪性腫瘍のほとんどを占めるのは肺がんであり、その患者数は年々増え続けています。特に北海道は肺がんの罹患率および死亡率が全国トップレベルにあると言われています。

呼吸器内科では主に肺がんの診断および内科的治療（薬物療法）を行っています。

肺がんは検診などで早期発見されない限り完治の困難な疾患ですが、新しい薬が次々に登場し、副作用対策も進歩したおかげで治療成績が格段に向上了きました。

進行がんであっても長い延命効果が期待できるようになった今日、患者さんの立場を尊重し常に患者さんと相談しながら治療方法を決めていくことが必要です。

当科では、個々の肺がんの性質や病状、肺がんの進行度やがん細胞のタイプに応じた治療の内容や将来の見込みなどを患者さんやご家族の方にご理解いただけるよう十分な説明を行っており、患者さんと医療スタッフが情報を共有し共通の認識のもとに治療を進められるよう心がけています。

診断と検査

① 画像診断

C T 検査を行うと肺に小さな（あるいは淡い）かけが高頻度に見つかりますが、がんは圧倒的に少ない上に、がんか否かの判断は通常不可能なため適切な対応が必要です。長年肺がん検診に携わってきた当科は、早期の肺がんや、良性悪性の鑑別が難しいかけの判断や対応に精通しています。

② 内視鏡検査

肺がんの確定診断は、主に気管支鏡検査で細胞や組織を採取し、それを顕微鏡で観察することにより下されます。かけが小さい場合には細胞や組織を採取することが難しいため高度な検査技術が必要となりますし、最近では、確定診断に加えてがん細胞の遺伝子異常や免疫の状態を調べ、その結果によって治療薬の種類が決まるようになったため、より大きな検体を採取することが求められています。

当科は超音波断層法（エコー）を併用した気管支鏡検査の技術に優れており、確実な診断と十分な検体採取の能力を持っています。

③ 細胞診断

病理診断医が組織診断と細胞診断の両方を行う施設がほとんどの中、当科では、細胞診専門医の資格を持つ複数の医師が細胞診断を直接行っておりますので、肺がんの確定診断を迅速かつ確実に得ることが可能となっています。

治療

① チーム医療

患者さんを中心に医師・看護師・薬剤師・理学療法士・ソーシャルワーカーなどが参画するチーム医療を実践しており、合同カンファレンスや関連各科（呼吸器外科、放射線科、病理）との定期カンファレンスなどを通して最善の抗がん治療および緩和治療の方法を検討しています。

② 薬物療法

新たな薬を使い始める場合には、入院していただき治療の内容や副作用を十分説明した後に治療を開始し、次いで可能な限り外来治療に移行していきます。

③ 治験および臨床試験

当科は道内外および全国レベルの臨床研究グループに属しており、新しい治療の開発のために国際共同研究を含む数々の治験および臨床試験を積極的に行ってています。先進的な医療を受けられる機会でもあり、対象となる患者さんにはご協力いただきたいと考えていますので宜しくお願ひ致します。

④ 緩和治療（対症療法）

抗がん剤や放射線治療を行っている患者さんの症状緩和治療については、必要に応じて当院の緩和ケアチームと協力し最善を期しています。

また、抗がん剤や放射線治療が望ましくないような病状に至り、他の緩和専門病院や地元の病院で緩和治療を続けたいと希望される場合には、当院の地域医療連携室が責任を持って転医調整を行いますのでご安心ください。

その他

① セカンドオピニオン外来

週1回木曜日の午後にセカンドオピニオン外来を設けていますので、肺がんの診療に関して不安や疑問のある方は是非ご利用下さい。

② 禁煙外来

今は禁煙補助薬で楽に禁煙ができる時代です。週1回月曜日の午後に禁煙外来を設けていますのでお気軽にご利用下さい。

③ 肺がんCT検診

低線量CTによる肺がん検診は北海道対がん協会の札幌がん検診センターが長年行ってきたもので、当科の医師がその診断を全て担当してきました。現在は、当院でも肺がんCT検診を行っています。レントゲンによる通常の肺がん検診より早期発見に優れていますので受診することをお勧めします。